

鹿大ジャーナル

KADAI JOURNAL

鹿大広報

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/>



ドローン動画配信中!!



鹿大ジャーナル movie
One Minute

特集

女性活躍推進法施行から4年
～鹿大の現在進行形～

NO. 214
2020 SUMMER

女性活躍推進法施行から4年 鹿大の現在進行形

国を挙げての取組の推進により、鹿児島大学はどう変わったか、どう進んで行くのか、男女共同参画推進の取組を基に、鹿児島大学のこれからを探った。

女性活躍推進法

女性活躍推進法とは：

「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進

法）」は、男女共同参画社会基本法（平成11年法律第71号）の基本理念に則り、男女の人権が尊重され、かつ急速な少子高齢化の進展、国民の需要の多様化、その他の社会経済情勢の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現することを目的として制定されました。

本法は、女性の職業生活における活躍の推進について、その基本原則（上枠内に記載）を定め、国、地方公共団体及び事業主の責務を明らかにすることが求められています。

法律制定整備の社会背景

日本の女性の就業率は、近年大きく上昇したものの、就業を希望しつつも育児・介護等を理由に働いていない女性は約300万人に上っていました。殊に第1子出産を機に約6割の女性が離職することから、30代の女性の就業率は約68%と低水準で、離職後の再就職に当たって非正規雇用になること等が、雇用の不安

定化や低賃金といった問題に加え、長期的なキャリア形成を通じた女性の能力発揮を阻む一因となっていました。また、男性を中心とした雇用慣行を背景として、管理的立場の女性の割合は、欧米諸国だけでなくアジア諸国と比べても低い水準にありました。（下図）

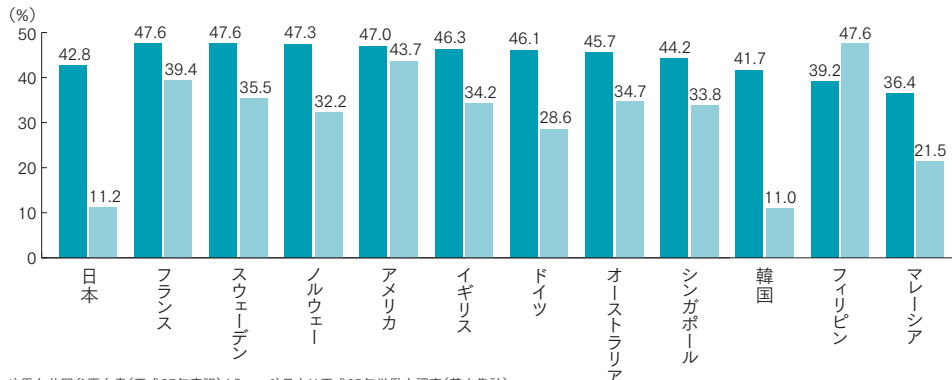
また、少子高齢化により将来の労働力不足が懸念され、日本の持続的発展のために早急に女性の活躍の推進が求められ、女性の力を最大限に発揮していくことが課題となりました。

研究分野における現状

日本においては、女性技術者や女性研究者が少ない現状にあり、国際比較では日本は下位のため、大学においては女性技術者及び女性研究者の育成は喫緊の課題でした。

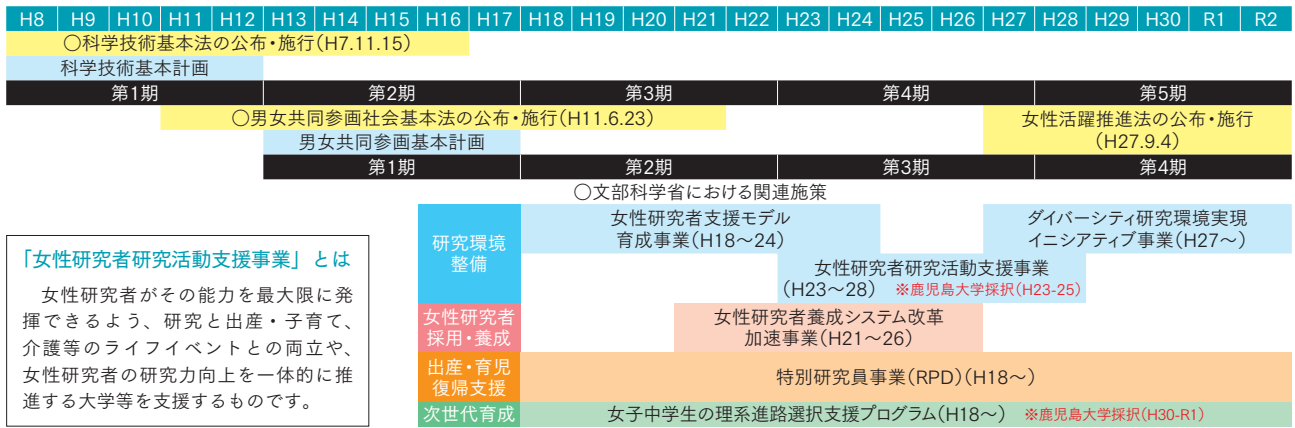
国は、そのような状況に鑑み、科学技術基本法に係る科学技術基本計画や男女共同参画社会基本法に係る

就業者および管理的職業従事者に占める女性割合



1) 男女共同参画白書(平成27年度版)より 2) 日本は平成25年労働力調査(基本集計)
3) その他の国は平成24年のデータによるもの

■ 就業者 ■ 管理的職業従事者



「女性研究者研究活動支援事業」とは
 女性研究者がその能力を最大限に発揮できるよう、研究と出産・子育て、介護等のライフイベントとの両立や、女性研究者の研究力向上を一体的に推進する大学等を支援するものです。

施行前の鹿児島大学の状況とその対応

男女共同参画基本計画に、女性研究者の比率等の目標を掲げるとともに、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」等の施策を開始しました。(上図)

- さて、本学に目を移してみましよう。本学は、平成21年に男女共同参画推進室を設置、鹿児島大学男女共同参画基本理念を制定し、「一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために」をスローガンのもと、合わせて制定した行動指針において、
- ① 男女共同参画の視点に立った教育、研究、就業の場の確立及び大学運営における意思決定過程への女性の参画を拡大すること
 - ② 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を重視した施策を推進するため環境を整備すること
 - ③ 女性の能力開発・能力発揮支援のため、積極的改善措置の推進、女性キャリアアゲインダンスの充実、再チャレンジ支援を実施すること
 - ④ 男女共同参画に資する教育・研究、広報・啓発活動を、地域と連携して積極的に推進すること
- を謳い、一人ひとりが個性と能力

を発揮できる環境の実現に向けて取り組んできました。特に、平成23年には、前述の「女性研究者研究活動支援事業」に採択されたことで、女性研究者支援を柱とした支援策を充実させ、事業終了後も継続実施してきました。

しかしながら、女性活躍推進法に係る一般事業主行動計画を立てる際の指標において、次の課題がありました。

- ・ 教育職（研究職を含む）に占める女性割合の低さ。
- ・ 管理職に占める女性割合の低さ。
- ・ 男性育児休業取得者数の低さ。

これらの課題について、定量的目標を5つ掲げ、取組を進めることとしました。

【定量的目標】

- 1 教育職（研究職を含む）採用者に占める女性割合を30%以上とする。
- 2 教育職（研究職を含む）に占める女性割合を20%以上とする。
- 3 管理職に占める女性割合を15%以上とする。
- 4 役員に占める女性割合を20%以上とする。
- 5 男性の育児休業取得者を3名以上とする。

取組概要説明

意識醸成

組織における男女共同参画と多様な性の尊重のためには、まず管理職等の意識醸成が重要な鍵となります。

一 男女共同参画トップセミナー

前述の女性研究者研究活動支援事業終了年から、女性リーダー育成をテーマにして、国や学会等との男女共同参画やダイバーシティ推進に係る委員等を講師に招請しました。

講演の中で、平成26、27年は、女性のリーダー育成や育成のための環境整備の必要性等について、平成28年は、全国に先駆け、無意識のバイアスをテーマに開催、職員採用時の選考委員に無意識にあるバイアスへの気づきを促し、採用選考に悪影響を及ぼさないことを目的とした研修の紹介を行いました。また、平成29年には、男性学の視点から、男性主導の社会に横たわる社会的な性別役割の意識が女性リーダー育成や女性キャリア形成に及ぼす影響等について、平成30年には、大学改革や活力ある組織をつくる上で根幹をなす重要な課題として女性の活躍と多様性の尊重があること、令和元年には、女性活躍やダイバーシティの促進には、アテナ・スワン憲章等の国際的

年度	講師名	所属	演題
H26	小館 香椎子	科学技術振興機構 男女共同参画主監 日本女子大学名誉教授	女性研究者のリーダー育成と輝く未来に向けて ～継続の視点から～
H27	渡辺 美代子	科学技術振興機構副理事 ダイバーシティ推進室長	女性が魅力を感じる鹿児島大学にするには ～女性活躍推進法の本格実施に向けて～
H28	マチ・ディルワース	沖縄科学技術大学院大学 男女共同参画担当副学長	沖縄科学技術大学院大学のダイバーシティの視点での採用研修プログラム ～潜在的バイアスの影響を最小限に留めるために～
H29	伊藤 公雄	京都産業大学教授 ダイバーシティ推進室長	高等教育におけるジェンダー課題をめぐって ～男性学・男性性研究の視座と関わらせて～
H30	吉武 博通	首都大学東京理事 お茶の水女子大学監事、 筑波大学名誉教授	大学改革とダイバーシティ
R1	藤井 良一	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構長	大学における女性リーダー育成の重要性とその方策事例について

－ 男女共同参画トップセミナー －

な男女共同参画の評価指標による取組を意識して取り組んでいくことが不可欠等の指摘やアドバイスがありました。セミナーには、学長をはじめ理事や副学長、学部長、事務部管理職等が参加、意思決定の機会等への女性の参画や管理的立場やリーダーとなる女性の育成等が大学の成長戦略となることについての理解を深める機会となりました。

二 全管理職による「イクボス宣言」
平成29年から、役員および部局長等の管理監督者全員が、自らも仕事と私生活のバランスをとり、働きやすい環境整備に努めるため、『私は、組織の仕事と家庭の両立を応援しながら、仕事と私生活を楽しむ「イクボス」となります』との共通の文言に続き、男性の育児休業や休暇等取得のしやすい職場環境づくりや次世代育成支援等に関することなどの項目を複数立て「イクボス宣言」を行っています。宣言文は、執務室等に掲示し、自身への意識付けとともに周りの人への可視化を図っています。

三 全教職員へのリーフレットの配布
「無意識のバイアス」 unconscious Biasを知っていますか? (男女共同参画学協会連絡会著) を平成29年に全教職員へ配布し、以降も新規



－ 令和元年、新執行部によるイクボス宣言 －

も変化した」「ある程度変化した」に59%が回答、「どのような状況で変化したのか?」の問い(複数回答)には、67%が「相手の立場や状況に対する、自分の思い込みやきめつけがあることを意識して言動するようになった」、43%が「性別への先入観があることを意識して言動するようになった」と回答しています。

女性へのエンパワメント
エンパワメントとは、個人や集団の潜在能力を引き出し、必要な力をつける、外郭的な影響を与えるようになることと定義されています。リーダー育成には、女性自身がリーダーになれると思えるような意識改革やスキルアップ、環境整備が重要です。

採用者に配布しています。
誰にでもあるとされる無意識のバイアスと、そのことが採用や登用、就業環境等の在り方等に及ぼす悪影響等について知ることを目的としています。

リーフレット配布についてのアンケート調査(令和元年)では、「リーフレットの熟読が、あなたの「無意識のバイアス」の意識化に影響しましたか?」の問いに対し、「とても影響した」「ある程度影響した」と77%が回答、「言動において変化があったか?」の問いに対し、「とても

一 女性リーダー育成セミナー
女性研究者支援事業により平成24年から平成27年は、主に女性研究者を対象としてリーダー育成セミナーを行ってきましたが、本法成立以降は、大学組織における女性リーダー育成を目的に実施しました。平成28年は、鹿児島県初の女性副知事・小林洋子氏から、前職の厚生労働省時代に法案策定に携わった本法の目的やキャリア形成における仕事と生活の考え方、女性のリーダー的役割等についての特別公演を、学内公開で

開催しました。平成29年、平成30年、令和元年には、各事務課等からの推薦者（係長や主任等）を主な対象として、講演だけでなく、リーダーの役割や求められる役割について考えるグループワークも行いました。平成30年には、本学の女性管理職の講話もあり、学内外で活躍するロールモデルから、キャリア継続、キャリアアップするための工夫等を学び、自分らしいリーダー像を思い描く機会となりました。



年度	講師名	所属	演題
H28	小林 洋子	鹿児島県副知事	男女共同参画とキャリアデザイン
H29	長利 京美	株式会社新日本科学執行役員	企業における女性活躍とリーダー育成～求めよ、さらば与えられん～
H30	大庭 直美	鹿児島労働局雇用環境・均等室長	組織における女性リーダーの意義
R1	立元 昭子	A-cube株式会社代表取締役会長	チームを活性化するリーダーに求められる役割

－ 女性リーダー育成セミナー －

二 スキルアップセミナー
キャンパスグローバル化には、英語力は必須であるため、教員だけでなく事務を担う職員も対象にして、英語Eメール・コミュニケーションセミナー、英語論文・プレゼンテーションセミナー等を開催しました。大学院生の参加も認め、研究者や技術者へのキャリア形成に役立つものとなりました。

三 キャリア継続支援

若手・女性研究者に対する研究助成（留学支援や研究費助成）の他、ライフイベント期の研究者に、育児や介護等の時間を確保しつつ研究も継続できるように研究支援員を配置する「研究支援員制度」、キャリア形成における悩みへの相談に個別に対応する「メンター制度」を運用しています。これらは、研究者の研究成果や上位職への昇任及び支援員の博士課程進学や研究者をめざすことなどにもつながっています。

事務系職員については、各職階における研修で、女性管理職の増加の必要性について啓発し、新規採用者へのメンター配置、キャリアアップ

に伴う段階的な研修への女性の参加促進等を行っています。管理職候補者研修を本年度中に実施予定としており、女性事務系職員のキャリア継続やキャリアアップを図ることとしています。

ポジティブ・アクションの実施

男女間の格差を改善するために、積極的に改善する手立てが有効です。

女性研究者の増加策として、公募要領に「女性研究者の積極的な応募を歓迎」を必須記載事項とし、人事選考においては、「能力が同等の場合、女性を優先的に採用する」プラットフォーム方式を複数部局が実施しました。さらに、農学部や工学部では女性限定の公募も行われ、上位職（教授・准教授）での採用にもつながりました。

事務系職員については、令和元年に、「国立大学法人鹿児島大学事務職員昇任基準」に、「能力が同等と認められる場合は、女性を優先して昇任させる」、また、育休取得に配慮し、「同基準」に「昇任選考時における、必要な各職位の経験年数から育児休業期間を除外しない」と明記し、管理的立場の女性を増やしていくこととしています。

女性研究者の活躍支援

「鹿児島大学 Women in Science for Health 研究推進ワーキンググループ」(WiSH WG)は、女性・若手研究者の国際的研究の促進とダイバーシティ研究環境の形成を推進することを目的に、平成30年に複数部局の女性研究者により設置されました。

平成31年2月には、WiSH WG企画による「女性・若手研究者国際シンポジウムin鹿児島大学」ダイバーシティで拡げる研究の「みらい」を開催しました。第1部は、甲



－ 意見交換の様子 －

斐知恵子氏（東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター 教授）から、「致死性ニパウイルス感染症との闘い」と題して、また、邢 惠琴氏（中国 厦門大学医学院 教授）から「HIV 関連神経認知障害の病態」と題しての基調講演、第2部は「ダイバーシティで拓げる研究の未来」をテーマに、本学の郡山千早教授（医学系）がコーディネーターを務め、登壇者に本学の若手・女性研究者と基調講演講師を迎えた意見交換が行われました。

環境整備

未だに出産を機に退職したり、育児・介護を主に担ったりしている女性が多いことから、環境の整備は女性のキャリアの継続のために重要です。そしてそれは、性別に関わらず一人ひとりの個性や能力が発揮できる環境につながります。

一 多様な働き方とワーク・ライフ・バランスの実施

本学には多様な職種や働き方があります。研究職の多くは自分でタイムマネジメントする裁量労働制ですが、事務系職員には、ライフスタイルに合わせて始業時刻を早めたり遅らせたりする早出遅出の選択が可能となっています。また、「ノー残業デー」を毎週1日設定し、イクボス

が帰宅を促す等の声かけを行っています。育児・介護休業では、法の義務規定以上の支援を可能とし、年休の取得も促進しています。さらに、介護に係る情報提供及び相談会や、ワーク・ライフ・バランスセミナー等も実施しました。平成30年の安藤哲也氏（NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事）から「働き方改革は、生き方改革と良いライフが良いワークを生み、個人も企業も成長する」と題して、令和元年には、小林剛氏（鹿児島労働局長）から「働き方改革の目指すもの」の視点から」と題して、主に管理的立場の職員を対象とした講演がありました。

二 事業所内保育施設の整備

本学には、病院地区の桜ヶ丘キャンパス内に平成20年に開園した「さくらっ子保育園」と、平成30年10月に企業主導型保育事業を活用して、郡元キャンパスに開園した「さつつん保育園」があります。事業所内保育施設の魅力を兼ね備えたこの二つの施設では、年度途中の着任や休業復帰時の柔軟な対応、園内での授乳や子どもの病後児保育等、安心して働くことができる体制が作られています。



— さつつん保育園 —

三 ハラスメントのない職場作り

一人ひとりの個性と能力の発揮のためには、ハラスメントのない職場環境は重要です。リーフレット「みんなでなくそう大学のハラスメント」の全教職員への配布、並びにハラスメントセルフチェックとハラスメント行為をしないことを約束するため、記名・押印の上、宣言しています。

次世代育成と地域貢献

大学には、女性の研究者や技術者を増やし、男女共同参画社会に向けた地域社会への貢献が求められています。

本学では、次世代育成のために、女子中高生を対象に理系進路選択支援を実施しています。平成30年、令和元年の2年間は理学部が中心となり、鹿児島県教育委員会と共催で、科学技術振興機構次代人材育成事業「女子中高生理系進路選択支援プログラム」を実施しましたが、奄美地域を含む県内各地での出前型科学体験塾、理系の職場見学、本学での科学体験塾などに、県内各地から女子中高生の参加があり、理系分野や大学進学等を考えてもらう機会となりました。

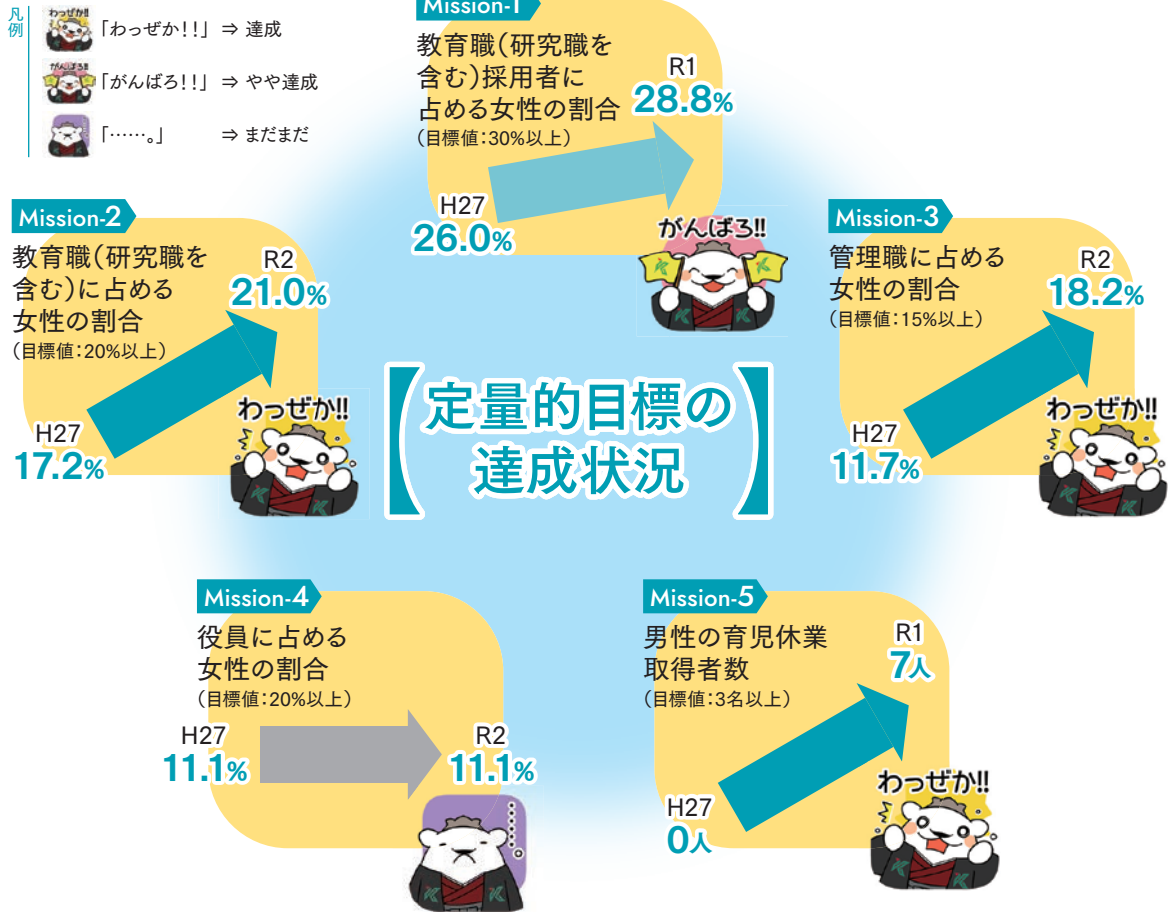
また、平成29年11月、鹿児島県男女共同参画室・センターと県内大学等による「鹿児島県内大学等男女共同参画連携会議」を設置し、国や鹿児島県の女性活躍推進事業等の情報共有、各機関の取組紹介等を行って各機関の取組をさらに進めることとされています。

＜トピックス＞

平成30年11月

「鹿児島県女性活躍推進優良企業知事表彰」受賞

この表彰は、働く女性が能力を発揮して、いきいきと活躍し、環境づくりをしていることが認められたもの



令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により、一人ひとりが、その感染のリスク等をジブンゴトとして捉え意識し、その悪影響を最小限に抑える努力を余儀なくされています。また、この感染症により新しい視点をもたらされ、社会のあり方が大きく変わろうとしています。

男女共同参画は、人権課題の重要性や性別による偏見の解消という観点から、その推進の必要性が叫ばれてきました。しかしながら、まだ道半ばの感があります。組織や個人が、男女共同参画の必要性をジブンゴトとして意識し、行動することで、早期に男女共同参画社会を実現させなければなりません。

今回の特集記事で、女性活躍推進法一般事業主行動計画の数値目標について、ほぼ達成していることをご報告することができました。一方で、役員や管理職に占める女性の割合



総務担当理事・副学長
男女共同参画推進室長

越塩 俊介

合も、女性研究者に占める女性の割合も、国が求めているあらゆる分野での女性の比率30%にはまだ遠く、男性の育児休業取得も少ない状況にあります。

知の拠点である大学には、次世代の育成、それに伴う変革の原動力の創造、さらには、基礎・応用研究の促進、地域貢献等、多岐に渡る多くの役割があります。

また、男女共同参画・ダイバーシティ推進に関連するセミナーで多くの演者が共通して語られたことに、「男女共同参画・ダイバーシティは成長戦略であり、女性の参画なくしては成り立たない。しかし、男性社会の意識や慣例がハードルとなっている」ということがありました。

本学は、学長のリーダーシップのもと、それらを強く意識し、「一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために」、女性の活躍推進、男女共同参画・ダイバーシティ推進に丸となって取り組んで参ります。

今後とも本学の男女共同参画・ダイバーシティ推進へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



鹿児島大学マスコットキャラクター「さっつん」と男女共同参画推進センターのシンボルマークのコーポレーション



甲突川河口付近の
海岸で放射線を測
定する中村先生

潜入ルポ
学びの部屋
Lecture of the University

「放射線とくらし・地域」

(共通教育科目)

理工学研究科
機械工学専攻

中村 祐三
准教授



正しい情報を学び、
自ら判断できる
力を養う

物理学の知識を礎として放射線放射能について学び、現代の暮らしのなかでの放射線利用や生体・環境への影響、原子力関連事故と防災、地域社会への影響など幅広く学ぶ講義だ。正しい知識と原理、事実に立脚して判断する能力を養うことを目的としており、風評被害や人権侵害についての考察も深める。例年は、中村祐三先生による座学に加え、環境・自然放射線測定、アルファ線の軌跡を見る霧箱作成、本学機器分析施設見学など多岐にわたる実習が設けられ、グループによるアクティブラーニングが導入されているのも特徴。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大に鑑みて定められた本学の指針に沿い、動画配信によって授業が進められた。

いたる所に 存在する放射性物質

「放射性物質」動画の中で、中

村先生の手にした放射線測定器が音をたてる。本校校舎のほか海岸、住宅地、公園……。線量の多寡はあるものの、鹿児島市内のあらゆるポイントで放射線が計測された。また、さまざまな素材をガイガーカウンターで測定、先生の作成した波形分析データも示される。「放射性物質や放射線は原子炉だけが出している、と思われがちですが、放射線は宇宙からも降り注ぐし、放射性物質を含む石や土壌、食材もある。地球とともに生まれた人間の体内にも、もともと微量の放射能が含まれているのです」。医療分野や農業分野、工業分野など多くの分野で放射線が活用されていることも紹介される。「このように放射性物質や放射線は身のまわりに存在します。原子炉の放射能に過敏に反応する人もいますが、正しい知識を身につけた上で心配してほしいと思います」。放射線のほかにもウイルスや太陽光線、タバコなど、人間に害を及ぼすものは数多く存在すると中村先生。正確な知識と事実をもとに自分で判断できる能力を養ってほしい、という思いを口にする。

社会的不安は暴走する

知識の欠如から引き起こされた例として1999年、東海村で起きたJCO臨界事故について、先生は解説する。「核

燃料の燃焼が持続して生じる臨界条件を正しく理解し、法的にも定められている要件が何故そのような規制があるのかわかっていなければ絶対にやらない手順で作業をしたことが事故を招いた」

2011年に発生した東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故の際も、無知から生み出された社会的不安が数々の悲劇を生んだことを先生は指摘する。「福島から避難した子どもたちが伝染病を持っていると言われ、いじめや差別を受けました。皆さん、差別は合理的ではないと思うかもしれませんが、現在、新型コロナウイルスの蔓延をきっかけに似たことが起きています」。身の周りで起こっているいじめや風評被害について考え、防ぐためにはどうしたらよいかそれぞれ考えてほしいと、中村先生は呼びかける。また、この授業では地域の暮らしに根ざして、地元原子力発電所の説明と同時に原子力防災対策の紹介を行い、地域のエネルギー事情と地球温暖化についても考える。事実を冷静に見極めて判断するためには、根拠となる基礎知識の修得が不可欠だ。

困難を、前へ進む糧に

本講義は公開授業の一つになっており、例年は社会人の受講も見られる。

また本講義のほか、本学ではRI実験施設が中心となって小中学生向けの体験講座を実施。教員免許状更新講習においても身のまわりの放射性物質や放射線とそれらの応用を取り上げ、様々なレベルでの教育現場での取り組みに関して先生方と検討している。「福島の人たちが受けた差別、風評被害を繰り返さないためにも、子どもたちへの教育は重要。同時に先生や保護者が正しい知識を身につけて、子どもたちを導くことも大切です」

今年度、初の試みとなった遠隔授業について、中村先生は「学生の反応が見えず戸惑った方、通常の実習では実現が難しい測定データが得られたのは収穫。動画作成にあたり学内外のさまざまな人の協力を得られたことも有意義でした。オンライン授業のメリットもデメリットも把握できたので、今後、さらに充実させていきたい」と話す。



中村 祐三 (なかむら・ゆうぞう) 准教授

鹿児島大学 理工学研究科 機械工学専攻

【学位】博士(工学)、九州大学、1989年2月

【所属学会】日本熱処理技術協会、日本機械学会、日本金属学会、日本材料学会

【専門分野】材料工学

【研究テーマ】金属・セラミック材料の組織、強度と破壊/スパークプラズマ焼結/地元資源(シラス)・伝統工業技術に関する研究等

YOBOG INTERVIEW

先輩からのメッセージ

意思を持って自らアクションを起こすことが、
人との出会いにつながり、道をひらくということ。
学生時代の経験から実感しています。

アビスパ福岡 トップチーム コーチ兼分析 中嶋 円野(なかしま かずの)

福岡県出身。2017年3月 鹿児島大学教育学部 生涯教育総合課程健康教育コース卒業。
同年4月 筑波大学大学院人間総合科学研究科コーチング学入学。2019年3月 卒業。

【指導歴】2014～2016年 FCアラーラ鹿児島 コーチ、2015～2016年 鹿児島大学サッカー部 コーチ、2017年
筑波大学蹴球部トップチームコーチ、2018年 筑波大学蹴球部トップチームヘッドコーチ、2019年 湘南ベルマーレ
トップチーム コーチ/分析、2020年 アビスパ福岡 トップチーム コーチ/分析 ※2015～2018年 知的障がい者サッ
カー日本代表 コーチ/分析

福

岡山県福岡市をホームタウンとするアビスパ福岡(明治安田生命J2リーグ)でコーチ兼分析を務めているのが、本学OBの中嶋円野さん。ミッシェンは、トップチームのトレーニングサポーターやコーチングで、分析においてはチームの要として中心的役割を担う。試合前には、過去映像などをもとに対戦相手の攻撃、守備を分析。

中嶋さんの制作したシミュレーション映像などをもとに、監督以下5名のコーチ陣でディスカッションを重ね、戦略を練る。勝敗につながる責任の重いポジションについて「どんな仕事にも厳しさはつきものと思いますが、どのように伝えれば選手が理解しやすいか、というところが試合に直結する部分なので、やりがいと同時に難しさもある」と言い、幅広い世代の選手とのコミュニケーション力をつねに意識している。

幼少期を福岡県で過ごした中嶋さんがサッカーを始めたのは小学3年生の時。ア

ビスパのホームゲームには自転車で1時間の道をひたすら漕いで通っていたそう。

大学進学の際は、プロチームの選手より指導者になりたという漠然としたビジョンがあり、体育の教員免許を取得することのできる本学に進んだ。入学後はサッカー部でプレーヤーとして活躍したが、3年生からはコーチとして部を牽引。同時に、学外で実施されるサッカー関連の活動に自ら積極的に参加し、始良のクラブチーム(FCAアララ鹿児島)や、鹿児島県サッカー協会の小学生選抜チームでコーチを務めた。鹿児島ユナイテッドFCの前身チーム、ヴォルカ鹿児島でストライカーとして活躍した西眞一氏(現・鹿児島ユナイテッドFCフェューチャーズ総監督)と出会ったのもこの頃。2018年W杯スウェーデン大会(INASサッカー世界選手権)を目指す日本代表の監督を務める西氏に声をかけられたことがきっかけとなり、2015

年から2018年まで日本代表チームのスタッフを務めた。それは、障がい者スポーツ指導に関わる初めての体験ともなった。「より丁寧に、かみ砕いて理解しやすいようにコーチングすることを特に意識しました。伝え方、コミュニケーションの取り方

について学ぶことが多かったです」。この経験は、障がいは個性の一つであり、お互いを尊重し合うことが大切だということを実感する得難い機会になった、と中嶋さんは話す。

現在、新型コロナウイルス流行に起因する社会の大きな変化を乗り越えるためにも、この先は自分で考えて行動することがより一層大切になる、と中嶋さん。「今まで通用していたことが通用しなくなり、新しいことが増えると思います。自分自身、柔軟に対応できる力を身につけたいと思案中です」。温かな笑顔の中に、スポーツマンらしいチャレンジ精神が浮かんだ。



1 鹿大サッカー部のチームメートを牽引していた学生コーチ時代 2 練習中も選手一人ひとりの動きを把握し、指示を送る一体になって研鑽に励む 3 練習中の動きを撮影、確認し、選手と一 4 相手チームの試合映像ダイジェストを編集するのも大事な役割。パソコン作業も予想外に多い 5 「自分から積極的に動くことが大事」と、後輩へのエールを送る中嶋さん。柔和な笑顔が印象的だ

写真提供：アビスパ福岡



Scholar Interview

研究室から

★ 鷹野 敦 准教授

理工学研究科 建築学専攻
NPO法人こどものけんちくがっこう 理事長



住む人一人ひとりの街づくりに対する“民度”を高めたい。 街づくりに関心を持つ人を育てる建築家の取り組み ～こどものけんちくがっこう～

工 学部建築学科の鷹野敦准教授（環境建築研究室）は、木造建築や木質材料

についての研究とともに、県内外の建築物の設計・施工に携わる「半土半農」の建築家だ。地域貢献活動にも力を入れ、本学に赴任した2016年度から鹿児島市の工務店（株式会社ベガハウス）との産学協働により、県内の小中学生を対象とした「こどものけんちくがっこう」を運営。継続的な取り組みは全国的に高く評価され、この2年間に「こどものけんちくがっこう」は3つの賞を受賞した。多彩な活動の根底にある鷹野先生の思いを伺った。

★街づくりに求められる
住民一人ひとりの“民度”

鷹野先生は大学時代、本学の建築科で学んだのち建築事務所での実務経験を経て、フィランソロピーのアールト大学へ留学。木造建築や木質材料、環境についての学びを深める傍ら、海外での見聞を広めた。「ヨーロッパの国々では、一般のおじさんやおばさんが建物にとっても詳し



験がある
と、将来、家を

く、街の景観への関心が高い。街にそぐわない建物が建てられそうになると、周りがすぐ止めにかかります。建築や街づくりに関する人が育てるという遠大なねらいもある。

★ユニークな現代版・郷中教育

いくら良い技術者がいても、良い街並みはできない。建築の専門家ではない一般の人にも街並みや建築、環境を自分のこととして考え、関わってもらうことが重要、と確信した。「大学で専門家の卵を育てることも大事だけど、同時に、もっと早い段階で、当たり前前に自分たちの住む街や建物、環境について考えてもらいたい」と、鷹野先生は帰国後すぐにこども

協力

得て館内に

実物大の遊び

場や読書スペースを

制作したこともある。子

どもたちへの指導は全て大学生が務めるという郷中教育スタイルも特徴で、学生が主体となって毎年、趣向を凝らした活動に取り組んでいる。今年度は、変化する社会情勢を契機と捉え、オンライン講座も新たに導入した。ユニークな取り組みは全国的に注目を集め、2018年度の第14回木の建築賞において「木の活動賞」、ウッドデザイン賞2019において優秀賞、さらに2020年度日本建築学会教育賞を受賞した。

★考え方はシンプルに、状態は複雑に。

「木の建築賞は、建築家や研究者など木のプロフェッショナルが選ぶ実務目線の賞、ウッドデザイン賞は消費者や市民にどのような木を届けているかという視点で選ぶ賞。建築学会の教育賞は、アカデミックな教育活動としての位置づけが認められ

たということ」。多角的な視点

からの評価を、鷹野先生は喜

ぶ。「百姓とは単に農業従事者

を指すのではなく、色々な仕事

ができる人のことを指すという

考え方に共感するし、私自身そ

うでありたい。鷹野研究室で

は、こどものけんちくがっこうを

はじめとする研究・建築活動の

主体に学生を据えている。企

画、運営のほかお金やスケジュー

ル管理など、社会と接点を持

ち、実践の場で学んでほしいとい

う鷹野先生の教育方針による

ものだ。「建築は実学だから、学

生も巻き込んで研究も実践も

等しく行いたい。環境という視

点から木を考える研究をやっ

きたので、おのずと自然も人も

複雑に絡み合って成り立ってい

るという意識に」と語る。休日の

菜園づくりも、フィンランド時代

から続く活動の一つ。「いろいろ

な菌や虫や雑草や野菜が共生

しているのが健全な畑。今日の

社会的、環境的な問題は、複雑

さの欠如に起因していることが

多いように感じる。シンプルに考

えながら、状態としては複雑で

ありたい」と結んだ。



一般社団法人日本建築学会教育賞。こどものけんちくがっこうの下見を兼ねて農学部が実施した自然学校に参加（垂水市農学部附属演習林にて2018年）

Profile

鷹野 敦(たかの・あつし)

鹿兒島大学理工学研究科建築学専攻 修士課程2004年3月修了、アアルト大学 School of Chemical Technology 木質材料学 修士課程 2012年06月修了
 フィンランド共和国、アアルト大学 School of Chemical Technology 木質材料学 博士課程 2015年09月修了、2016年3月より現職。一級建築士
 ■所属学会：日本建築学会/日本木材学会/日本森林学会
 ■専門分野：建築学
 ■研究テーマ：○建築設計○木質材料○木造建築○環境評価

下水処理水を利用した水耕によるカリウム低減作物の栽培

農学部食料生命科学科

渡部 由香 准教授

1. appeal point

都市インフラとして既に存在する下水処理場を野菜工場として活用し、排水を養液として省エネ、省コストで実現する食糧生産は、資源循環型社会への画期的アプローチとなります。

2. appeal point

腎臓病の方をはじめとする食事制限の必要な方々に、リーズナブルな価格で多品目のカリウム低減作物を提供することが可能になります。



研究の背景および目的

【下水処理水場を野菜工場として活用する循環型社会への新たなアプローチ】

家庭などから排出される汚水は、下水処理場で活性汚泥法という方法によって沈殿物が分離され、微生物によって分解された処理水は殺菌後、川や海に放流されます。本研究は、処理後の水を利用した新たな水耕栽培の可能性を探るチャレンジです。

下水処理場に設置した温室内のプラントに処理水をパイプで誘導し、「掛け流し」の状態で作物に供給するシステムでは、処理水をそのまま液肥として利用するほか照明やヒーター、ポンプなどの動力も不要。使用後の養液はそのまま海や川に放流することができ、そのため、通常の水耕栽培と比較すると大幅な省エネ、省資源、省コストを実現することが可能です。これまでにレタスやトマト、キュウリ、春菊、ベビーリーフ、サトイモなどの収穫に成功しています。栽培手法は特許出願中です。

※研究は平成21～23年度、鹿児島市水道局との共同研究として実施した「下水汚泥等市民利用促進研究事業」における成果をもとに2018年度九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成基金(ギャップ資金)を受けて実現。過去の実験データを踏まえ、設備や栽培品目などに改良を加えて進めています。

取組の特徴

【腎臓病患者の食事を豊かにする、安全でおいしいカリウム低減作物の提供に向けて】

下水処理水で栽培した作物は、一般的な栽培法による作物に比べてカリウム含有量が減少することが明らかになりました(表2)。下水処理水のカリウム濃度が一般的な栽培養液の約2分の1であることが「因」として考えられます(表1)。

日本腎臓学会の定める基準では、慢性腎臓病(CKD)ステージG3bでは1日のカリウム摂取量2000mg以下、ステージG4～G5では1500mg以下を制限する目標量として推奨されています。今回、栽培に成功したキュウリ、ピーマン、カブの100グラム中のカリウム含有量は200mg未満に、青菜類も400～600mgから200mg台へと大幅なカリウム低減効果が認められました。豆類、芋類も20%台の低減が認められ、栽培法の工夫によりさらに低減できる可能性があると考え、機能性や食味向上、品目の拡大と併せて研究を進めています。

※「慢性腎臓病に対する食事療法基準2014年版」

研究の概要

1 設備概略

設置場所：鹿児島市南部処理場

設備：長さ10m×幅5mのビニールハウス内に掛け流し水耕装置5レーンを設置

構造：次亜塩素酸ナトリウム消毒後の下水処理水を水耕装置に流す。電力を使用せず、高低差のみを利用して掛け流す方式を採用。レーン内を流れた下水処理水はいったん枳に貯めたのち、河口に放流します。



2 下水処理水と通常の栽培液の成分比較および微生物検査

下水処理水のカルウム濃度は、一般的な栽培液の1/2程度であり、その他の栄養成分も少ないが、ナトリウムは120倍以上含まれます。微生物については、特に野菜での食中毒の原因として挙げられる大腸菌、サルモネラ菌を調査した結果、未検出でした。

◆表1.栽培に使用した下水処理水とHoagland培養液の成分組成(mg/L)

	NO ₃ ⁻	PO ₄ ³⁻	K ⁺	Ca ²⁺	Mg ²⁺	SO ₄ ²⁻	Na ⁺	Cl ⁻
1/5Hoagland	199	15	43	36	9	38	1	2
下水処理水	14	3.2	24	30	15	39	122	188

鹿児島大学農学部 植物栄養・肥料学研究室 榎木直也先生調べ

3 栽培可能な作物および主な作物のカルウム低減程度

これまでにキュウリ、からし菜、ピーマン、枝豆、サトイモ、ベビーリーフについては収穫物を得て、カルウム含有量を測定しました。本栽培法でほとんどの作物が栽培可能と思われる。とくに葉菜類の生育は、通常の栽培と遜色ないと考えます。現在、トマト、バナナ、パパイヤ、ダイコン、ニンジン、フダンソウ、春菊、サツマイモなどを栽培中です。



◆表2.得られた作物のおおよそのカルウム量(HORIBAコンパクトカルウムイオンメーターで測定)

作物名	カルウム (mg/100g)		
	食品成分データベース https://fooddb.mext.go.jp/	2019年度収穫物	減少率 (%)
ベビーリーフ (主に水菜)	480 (水菜)	250	42
からし菜	620	270	56
ピーマン (黄)	190	130	32
キュウリ	200	150	25
ミニトマト	290	230	20
カブ (根部)	280	110	61
枝豆	590	440	25
サトイモ	560	440	21

4 今後の展望

研究面においては、栽培法の検討・改善と収穫物の成分調査、機能性成分調査に加え、スマート農業のための栽培データ集積と活用が必要と考えています。実用化の面では産学官連携体制の構築、協力企業探索および広報活動へ向けての体制づくりが必要です。また、低カルウム野菜を生産できることが本研究の強みであることから、医師や管理栄養士と協力し、低カルウムメニューの開発と販売、購入者からのフィードバックを得ての作付けプランにつなげていきたいと考えています。

Profile

1991年 九州大学大学院農学研究院博士課程単位取得退学
1991年 鹿児島大学農学部 着任(助手)
1994年 博士(農学)取得(九州大学)
2007年 鹿児島大学農学部 准教授

この栽培法と一緒に考案した植物栄養・肥料学研究室の榎木直也先生をはじめとする様々な方々のご協力をいただきながら実用化に向けて研究を進めています。また、生産するだけでなく加工貯蔵の視点も取り入れて、安定してカルウム低減食品を供給できるような仕組みにも繋がればと考えています。

あえずホツとしています。
この栽培法と一緒に考案した植物栄養・肥料学研究室の榎木直也先生をはじめとする様々な方々のご協力をいただきながら実用化に向けて研究を進めています。また、生産するだけでなく加工貯蔵の視点も取り入れて、安定してカルウム低減食品を供給できるような仕組みにも繋がればと考えています。



渡部 由香

農学部食料生命科学科
水道局との共同研究「下水汚泥等市民利用促進研究事業」の分担者として、

10年ほど前に鹿児島市水道局との共同研究「下水汚泥等市民利用促進研究事業」の分担者として、下水処理水のみを養液とした水耕で花を栽培する、というテーマに取り組みました。試行錯誤の末、植物の根に下水処理水を絶えずかけ流す方法で、何とか成果を得ることができました。データを整理していた時に植物体中のカルウム含量が低くなっていることに気づき、野菜のカルウム低減栽培法として使えるのではないかと考えました。私の父が透析患者でしたので、この思いが常に頭の片隅にありました。一昨年の秋にギャップ資金の助成をいただき栽培施設の再建を行うことができ、昨年から栽培実験でよいデータも集まりつつあるので、とり

鹿大メッセージ
あきらめない心



・窯焼き本格ピザが楽しめる! 稲盛記念館1階に「フードカフェKADAI」がOPEN!

3月2日、本学工学部の卒業生であり、鹿児島大学名誉博士である稲盛 和夫氏（京セラ株式会社名誉会長）から、本学の教育研究の充実・発展の場としてご寄附いただいた稲盛記念館内1階に「フードカフェ KADAI」がオープンしました。セルフサービス形式のフードコートで、どなたでも自由にご利用いただけます。



イチオシは、生地から作る本場イタリア発のピザ。スタンダードな「マルゲリータ」は700円、4種のチーズを使った「クアトロフォルマッジ」は750円で味わうことができます（価格はすべて税込）。

テーブル席の他、カウンター席やITコンセントを備えた「IT PLAZA」があり、勉強しながら食後のコーヒーを楽しむことも。2階レストラン「ヴェジマルシェ'19」や館内の稲盛ライブラリー、京都賞ライブラリーとあわせ、ぜひ皆様ご利用ください。

・「臨終間近の老星が変身する瞬間を捉えた!」天の川銀河研究センターが記者発表

3月5日、理工学研究科附属天の川銀河研究センターは、理学部大会議室にて「臨終間近の老星が変身する瞬間を捉えた!」と題した記者発表を行いました。

この記者発表は、2月13日発行の米国科学雑誌「アストロフィジカルジャーナル・レターズ（The Astrophysical Journal Letters）」において、日本が南米チリ高地で運用するアルマ電波望遠鏡（ALMA）を使って捉えた、臨終間近に迫った星からの双極的な高速ガス流（ジェット）によって、惑星状星雲の原型が形作られることのメカニズムについての論文を掲載したことに伴い、本論文を執筆した本学の今井 裕准教授を含む国際研究チームと国立天文台によって、一般向け解説記事を国内外に同時発信するため実施したものです。

本記者発表には、本間俊雄理工学研究科長、岡村浩昭理学部長、半田利弘理工学研究科附属天の川銀河研究センター長の他、国際研究チームのアンダルシア天体物理学研究所上級研究員ホセ・フランシスコ・ゴメス氏が同席し、同センター・総合教育機構共通教育センターの今井 裕准教授が、連星系W43A等をプロジェクターに映し出ししながら、この度の研究成果について詳細に発表、今後も引き続き、アルマ電波望遠鏡、国立天文台、本学設備を使って研究をすすめていくと説明しました。



【今回の研究成果】

1. 太陽のような星々が連星系を成すと、最後にどのように進化するかその手掛かり（高速双極ジェット）がつかめたこと。
2. 老星ジェットの進化を人間の寿命の間に実時間で追跡可能であることがわかったこと。
3. 老星ジェットの形成の前兆を掴む決め手は、「宇宙の噴水」＝「メーザー源」だという確信を得たこと。

・日本野球誕生125周年中馬庚先生記念試合を開催 - 東大野球部vs鹿大野球部 -

3月6日、「日本野球誕生125周年中馬庚先生記念試合」として、東京大学硬式野球部と鹿児島大学硬式野球部の大学間交流試合を、新型コロナウイルス拡大感染予防のため、無観客にて鹿児島市鴨池市民球場において開催しました。

この試合は、鹿児島市出身で尋常中学造士館（同校は明治34年設立の第七高等学校造士館、昭和21年設立の第七高等学校を経て現在の鹿児島大学に至る）に教諭として勤務された中馬 庚先生が、1895（明治28）年にベースボールを「野球」と翻訳し、1897（明治30）年に日本初の野球指導書「野球」を著されてから125周年を迎えた今年度、本学が創立70周年、中馬庚先生が選手・指導者として活躍された第一高等学校、東京帝国大学、後の東京大学運動会硬式野球部が創立100周年を迎えたことを記念し、中馬庚先生の像が建立されている鴨池市民球場において開催したものです。



佐野 輝鹿児島大学長の始球式により試合が始まり、2回表に東京大学が1点を先制し、その後は両者互いにチャンスを作るもののなかなか点が奪えず、9回表に追加点を加えた東京大学が2対0で勝利しました。

最優秀選手賞は東京大学の大音 周平選手、敢闘賞は鹿児島大学の帖佐 竜聖選手に授与されました。

試合後は、中馬 庚先生像の前で両大学の選手同士が健闘をたたえあい、中馬 庚先生の功績を振り返りました。その後、鹿児島大学稲盛記念館において表彰式、昼食会を行い、東京大学と本学の野球部員にとってかけがえのない貴重な経験となりました。

・令和元年度学位記授与式を挙

3月25日、鹿児島大学事務局4階特別会議室において、令和元年度学位記授与式を挙りました。今年度の卒業・修了者は、学部卒業生1,920名、大学院修了者576名の計2,496名です。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年、鹿児島県総合体育センター体育館で挙行している卒業式・修了式を取りやめ、規模を縮小して実施しました。

授与式では、佐野 輝学長から、学部代表者の豊島 究視さん（法文学部4年）、修士課程代表者の宮路 裕之さん（農学研究科2年）、博士課程代表者の池田 由里子さん（保健学研究科3年）の3名に学位記が授与されました。

続いて、佐野学長は告辞の中で、本学を卒業する2,496名への祝意と、学生をこれまで支え励ましてくださったご家族の皆様への謝意を述べるとともに、本学の理念「進取の気風にあふれる総合大学」について触れ、卒業後も真のグローバル人材として羽ばたいてほしいとエールを送りました。また、本学の名誉教授である中村 晋也先生が制作した「若き薩摩の群像（鹿児島中央駅前に設置）」や、本学の「進取の気風広場」に設置された稲盛 和夫名誉博士の銘文を紹介し、卒業後も日本および国際社会の様々な課題に果敢に挑戦し、世界の平和と繁栄のために役割を果たしてほしいと話しました。そして、学長自身の座右の銘である「生死未断 不可妄陳（せいしいまだたずしてもうちんすべからず）」が、贈る言葉として添えられました。

最後に、山口 優萌さん（教育学部3年）による在学生総代送辞、松原 萌さん（農学部4年）による卒業生総代答辞が行われ、式は厳かに終了しました。



・令和2年度入学式を挙

4月7日、鹿児島大学事務局4階特別会議室において、令和2年度入学式を挙りました。今年度の入学生は、学部入学生1,948名、大学院入学生599名の計2,547名です。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、鹿児島県総合体育センター体育館で例年挙行している式典を取りやめ、規模を縮小して実施しました。人生の節目となるこの式典を心待ちにしていた新入生の皆さんやご家族の皆さんにとって本当に残念なことだったと思います。

式では、佐野 輝学長による入学許可の後、学部と大学院それぞれを代表し、小林 優莉さん（共同獣医学部）と萩山 勇希さん（農林水産学研究科）の2名が入学生宣誓を行いました。



続いて佐野学長の告辞では、入学生に祝意を表するとともに、本学の大学憲章を紹介し、現在猛威を振るう新型コロナウイルスに触れながら、「学生の皆さんには地球レベルの困難に立ち向かう人材として育ててほしい」と願いを込めて述べられ、本学が目指す「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学」について説明の後、「地（知）の拠点」の活力を通じ、「地の力」をもって、地球レベルの困難に立ち向かう人材育成機関として、「真のグローバル教育研究拠点を目指し学生の皆さんとともに進んでいきたい」とエールを送りました。

・徳之島3町（徳之島町・天城町・伊仙町）との包括連携協定をオンラインで締結

5月15日、鹿児島大学と徳之島3町（徳之島町・天城町・伊仙町）は、それぞれの資源や機能の活用を図りながら、より幅広い分野で相互に包括的に連携協力して地域社会の活性化に寄与することを目的として包括連携協定を締結しました。

なお、今回の締結式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、鹿児島大学と天城町役場をインターネット回線で結び、映像及び音声をリアルタイムで送受信することにより執り行う「オンライン締結式」で実施しました。

協定締結式では、佐野 輝 鹿児島大学長、高岡 秀規 徳之島町長、森田 弘光 天城町長、大久保 明 伊仙町長による協定書への署名に続き、高岡徳之島町長から「グローバルやICTを含めた人材育成」について、森田天城町長から「水産資源の活用や陸上養殖の実証事業など水産振興」について、大久保伊仙町長から「長寿や闘牛文化など多様性を活かした地域振興」について、それぞれ連携・協力して取り組みたい旨抱負が述べられました。続いて、佐野学長が「『南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点』のスローガンの下、今回の包括連携協定を機に、地域と大学は運営共同体として、地域に資する教育や研究を一層推進して参りたい」と決意を述べました。

徳之島3町（徳之島町・天城町・伊仙町）と鹿児島大学は、これまで南西諸島域の基幹産業であるサトウキビに関する生産管理の高度化を目指した「IoT 先端農業実証プロジェクト」を3町連携で進めているほか、農業・水産業・畜産業を中心に各町とそれぞれの特性に合わせた多様な連携を行ってきており、今回の包括連携協定締結を機にさらなる連携協力の強化が期待されます。



CONTENTS

特集	2
女性活躍推進法施行から4年 ～鹿大の現在進行形～	
潜入ルポ ～学びの部屋～	8
「放射線とくらし・地域」 (共通教育科目) 理工学研究科 機械工学専攻 中村 祐三 准教授	
先輩からのメッセージ	10
アビスパ福岡 トップチーム コーチ兼分析 中嶋 円野 さん	
Scholar Interview ～研究室から～	12
理工学研究科 建築学専攻 NPO法人 こどものけんちくがっこう 理事長 鷹野 敦 准教授	
知のタネ	14
下水処理水を利用した水耕による カリウム低減作物の栽培 農学部 食料生命科学科 渡部 由香 准教授	
鹿大トピックス	16
窯焼き本格ピザが楽しめる! 稲盛記念館1階に 「フードカフェKADAI」がOPEN! ほか	
進め! 鹿大生	19
法文学部 法経社会学科 経済コース 4年 中吉 聖仁 さん	
鹿大プラス	20
本格焼酎 甕壺仕込み原酒 進取の気風	

・江口 正純同窓会連合会名誉会長が寄附金贈呈

6月1日、鹿児島大学同窓会連合会名誉会長の江口 正純氏が学長室を訪れ、鹿児島大学修学支援事業基金への寄附金(二百万円)を佐野 輝学長に贈呈されました。



江口名誉会長からは「新型コロナウイルスの影響でアルバイト収入が減って困っている学生がいると聞いて心を痛めている。鹿児島大学は、地域にとってなくてはならない存在。寄附金は、お世話になった母校の学生のために役立ててほしい。」と温かいお言葉も添えられました。

佐野学長は、「経済的に困窮している学生のために大切に使用させていただきます。」と謝辞を述べました。

・新型コロナウイルス感染症に対する
治療薬候補となる化合物を同定
～オンコリスバイオファーマ(株)と
臨床開発に向けた特許譲渡契約を締結～

6月22日、鹿児島大学事務局第一会議室にて、ヒトレトロウイルス学共同研究センター・鹿児島大学キャンパスによる「新型コロナウイルス感染症に対する治療薬候補となる化合物」の同定に関する記者発表を行いました。

本記者発表は、平成31年4月に、鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターと熊本大学エイズ学研究センターが再編・統合して設置されたヒトレトロウイルス学共同研究センターの馬場昌範センター長、同センター・鹿児島大学キャンパスの岡本 実佳准教授、外山 政明特任助教の3名からなる研究チームが、同センターに設置されているバイオセーフティーレベル3 (BSL3) 実験施設を用いた研究により、培養細胞において新型コロナウイルス(以下 SARS-CoV-2)の増殖を強く阻害する化合物を同定したことによるものです。

記者発表では、初めに、佐野 輝鹿児島大学長から発表内容の概略説明及び企業との共同研究により本学発の薬剤が新型コロナウイルス治療薬として開発されることへの期待が述べられ、続いて、馬場センター長から、本日発表に至った研究成果の詳細と今後の研究開発計画についての説明があり、製薬企業とできるだけ早期の臨床試験に向けた共同研究を行うことで、COVID-19に対する新規治療薬の開発につなげたいとの熱意が語られました。

本学では、本研究成果に基づき、5月18日「抗 SARS-CoV-2薬」の発明を特許庁に出願、また、当該薬剤の臨床開発に着手するため、6月19日オンコリスバイオファーマ(株)と特許譲渡契約を締結しました。

今後は、特許譲渡先のオンコリスバイオファーマ(株)が国際特許出願を行うとともに、作用機序の解明、大量合成法の開発、薬物動態試験や安全性試験を実施する等、開発候補化合物の決定を行う予定です。

なお、本学とオンコリスバイオファーマ(株)とは2006年より抗ウイルス薬の開発に関する共同研究を行っており、馬場センター長は同社が開発を進めている OBP-601 (センサブジン) の発見者の1人でもあります。



鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿児島大学は、地域活性化の中核的拠点として、学生のグローバル教育の推進や地域に貢献する人材の育成など教育研究支援の強化に取り組むため、鹿大「進取の精神」支援基金を創設し、寄附のご協力をお願いしております。つきましては、本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくご願ひ申し上げます。

なお、本学への寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。

【お問い合わせ先】 鹿児島大学総務課基金・渉外係
 TEL:099-285-3101 FAX:099-285-7034
 E-mail: s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp
 基金ホームページ: https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/

鹿児島大学 古本募金

読み終えた本・DVD等でご支援ください

詳細・お問い合わせ
鹿児島大学 古本募金
 (電話受付) 9～18時・365日
0120-29-7000
 運営協賛: 古本募金きしげん(福岡野村株式会社)

雪の降るはずのない南の島に降り積もるプラスチックの“雪”。沖永良部島の浜で気づいた持続可能な社会づくりへの手がかり

進め! 鹿大生

法文学部法経社会学科経済コース4年

中吉 聖仁 さん

Nakayoshi Kiyohito

法文学部・澤田ゼミ(澤田成章准教授)に所属する中吉聖仁さんは、同ゼミの是石弘基さんとともに沖永良部島の漂着ゴミを持続的に回収する「えらぶのゆきプロジェクト」を考案。共同執筆した論文は2019年度NRI学生小論文コンテスト(主催・野村総合研究所)において2300点(うち大学の部84点)の応募作のなかで最高賞を受賞しました。

澤田ゼミの一員として年数回訪れる島で、漂着ゴミに悩む島民の声を耳にしたことが研究のきっかけ。「予想以上にゴミが多く、とりわけマイクロプラスチック(直径5ミリ以下)は、いくら拾ってもキリがない。島外からのゴミをなぜ島が負担しないといけないのか、という疑問が出てきました」。この体験をもとに、観光客にエコツアーの一環としてゴミを収集してもらい、プラスチック片や貝殻で作ったマイ・スノードームを持ち帰ってもらう仕組みを考案しました。「回収、処分の費用も人手も島だけで負担しなくていいし、善意や感謝という気持ちの交換は活動を持続的に行う上での動機づけになりうる」と自分たちの体験から気づきました。今後、事業化へ向けた具体的アドバイスのほか、災害に強い地域づくりへ向けた実践的提案など、島との連携活動を継続して行っていく予定です。



座右の銘

「臨機応変」

既存の価値観にとらわれず、状況に応じて自分でやるべきことを考えて行動していくことが、これからの時代には大切だと考えています。



スノードーム試作品。ドーム部分には特産の黒糖焼酎ビンなどのリサイクルを想定



昨夏、6日かけて浜辺のゴミ収集を実施。予想以上のゴミ量に驚いた

鹿大プラスでは、鹿児島大学インフォメーションセンターで販売している鹿児島大学の研究・教育活動の成果として完成した商品を紹介しします。



進取の気風

本格焼酎 甕壺仕込み原酒 進取の気風 度数:38度 容量:720ml 価格:3,157円(10%税込)

進取の精神・・・それは、我が国の変革と近代化の過程で活躍した先人の意志を受け継ぎ、「自ら困難な課題に果敢に挑戦する精神」を表しています。

鹿児島大学は「自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす」ことを大学憲章で謳っています。この理念のもと、地域の特性を生か

して誕生した鹿大ブランド本格芋焼酎が「進取の気風」です。

本学のチャレンジ精神から生まれた「宇宙黒麹」、「篤姫酵母」を使用して醸し出された味わいと、本学教員による題字やラベルデザインにも「進取の気風」が宿る一本です。黒麹独特の深い甘みと華やかな香り、そして、とろっとろの原酒の味わいをお楽しみください！



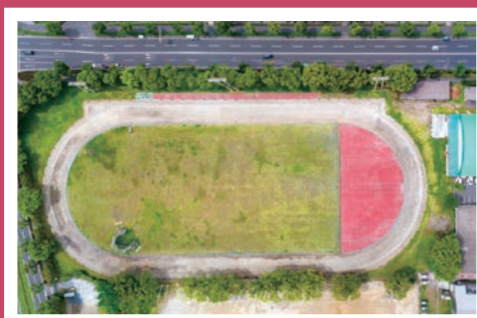
お求め・お問い合わせ先 **インフォメーションセンター(鹿児島大学正門横)**

☎099-285-3864 開館時間:月曜日～金曜日(休日・祝祭日を除く) 9:30～16:30(昼休み13:00～14:00)

今号の表紙「鹿児島大学 郡元キャンパス 陸上競技場」

郡元キャンパスの一画に位置する陸上競技場は400mトラックとフィールドを備え、学生・教職員の体育活動の場として、主に授業や課外活動のために使用されています。利用は予約制となっており、授業日の8時50分から16時は原則として授業で使用されていますが、使用予定がない時間帯は学生・教職員は予約なしで短時間使用することもできます。課外時間の16時から21時は、主として陸上競技部の練習の場となっています。

本学他施設とともに、陸上競技場もネーミングライツパートナー募集中です。企業活動の宣伝やリクルートなど広告・PR ツールの1つとしてぜひご検討ください。



鹿大グローバル movie
One Minute

ドローン動画
配信中!!